

二〇一三年七月十二日 開催

「街角でふれるコトバと社会」シリーズ 第3回——東アジア言語グループ

## 言葉から知る現代中国 「和諧社会」

飯島典子

■講演者……飯島典子(広島市立大学准教授)  
■司 会……林 史樹(本学アジア言語学科教授)

### はじめに

流行語が社会を知るキーワードになるのは世界共通と言ってもよいが、中国社会を知るもう一つの分かり易いアプローチとしてその時代時代の政府が打ち出すスローガンを追いかけるという方法がある。一九八〇年代から改革開放が進んで市場経済が取り入れられたとは言え、中国はなお共産党政府が打ち出すスローガン、キャンペーンが社会のあり方をも左右する重みを持っているのである。字の並べ方や字面で何かを完結に表したり訴えたりするのは漢字の得意とする所で、換言すれば中国語は明に暗にキャンペーンを張るのに向いている言語と言えよう。こうしたスローガンは現代中国語の口語が分からない者にとっても中国語圏以外の人々が二一世紀

の中国社会を知る上でも極めて有効な手がかりとなっている。ここではこうしたスローガンを紹介すると同時にそれが打ち出された背景を考察し、またそのスローガンにただ唯々諸々と従っている訳ではない庶民の反骨精神の現れも取りあげ、中国政府の意図する政策の一端を政府と民間の双方から考えてみたい。

さて、近年中国のみならず、世界経済を表すキーワードの一つに「格差社会」が挙げられるといっても異論のある向きはないであろう。周知のようにこれだけ物、人、情報が国境を越えて移動すると、経済発展が著しい国ほど格差の開きも大きい事は言を俟たない。ましてやEU加盟国がすっぽりに入るほどの広大な領土を持つ中国においては、文化の多様性、どの程度経済発展の恩恵に浴することが出来ているか、に關しても著しい地域の多様性があり、経済格差が生じない方が不自然であろう。経済格差の是正は何も中国だけの問題では



講演する飯島先生と、林先生

会」を意味する「和諧社会」というスローガンを掲げた。具体的な目標として二〇二〇年までに一、法治 二、地域格差拡大を是正 三、社会保障制度の完備 四、道徳文化資質の向上 五、資源利用の効率化を実現 六、経済格差とその是正 七、環境保護 八、持続可能な発展 九、節度ある社会を挙げたのである。

以下、中国社会がこうした社会の歪みをどのような言葉で表現しているか、を考察してみよう。

ないし、格差がモチ

ベーションとなって民間人の経済を活性化させる側面があるというもの、あまりにも大きな格差を放置しておけば反政府暴動の温床を用意するようなものである。政府と云えども全く手をこまねいてこの事態を静観している訳ではなく、二〇〇六年、当時の胡錦濤政権が「調和の取れた社

## 青山白石化

一九八〇年代以来の改革開放政策の流れによって中国が著しく経済発展を遂げたのは周知の通りだが、それまで政府には迷信とされてきた伝統文化が復活しつつある、という側面も見逃せない。その典型的な例が風水である。日本で風水という側面が強調されがちだが、それは香港など限られた土地で風水を実践するという些か特殊な事例である。中国で風水というのは古いと言うより環境活用という側面があり、山村の村落の場合など村全体の地形を考慮して、どこに墓を建てるのが良いか、を見立てるのが風水師の大事な仕事になっている。中国風水では墓（陰宅）の風水が縁起のよい土地だと、生きている人々の家（陽宅）にも幸運が訪れると信じられているので、墓の位置（都市部と異なり、農村では山地に自由に墓を掘って土葬にしてもよい）は住民の重大な関心事である。こうした風水を精神文化と考えれば一笑に付す訳にはいかないのだが、環境保全という側面から考えると野原に勝手に墓を建てられると美観に関わるのもまた事実である。人々が風水のよいスポット、「宝地」を見つけるとそこで樹木を場伐採し、同じ場所に競って墓を建てるため、当然ながら周囲の草は青々としているが、風水宝地の部分だけが墓石が集中している不自然な景観を呈してしまい、伝統文化の復興が皮肉に



写真1：青山白石化 遼寧省鳳城市A村 2008年8月16日 緒方宏海氏撮影

も農村の美観を損ねているという結果となっている。周知のように、第二次世界大戦後、特に文化大革命（一九六六〜七六）の間は風水が「迷信」として否定され、風水鑑定をすることも禁じられていた。改革開放以後、徐々に一度は「迷信」として否定されていた文化が復興するが、風水はその好例である。

しばしば中国語は詩に適した言語と言われるのは、前述し

たように僅かな漢字で作者が言外に込めた意味を読者に伝えることが出来るという特徴から来ていると思われるが、こうした「言外の訴え」はこうした墓地の乱立を嘆く「青山白石化」という言葉に象徴されている。この「青山白石化」という言葉を良く見て貰いたい。僅か五字の中に青・白、山・石と対とも言える漢字が巧みに配置されていることにお気づきだろうか。人間の身勝手さを表すのに、人という字を使わずに青・白、山・石と対象をなす字を配することで文学的な美しさを表現しつつ言外に嘆きを表す手法は漢字が得意とする所だと言えよう。

**文字に頼らない言葉——欧米発の「記号」も中国語の一部？**

さて、社会の現状を嘆くだけでなく、啓発を促すのも標語の役割だが、世界的にメールでの顔文字が定着した今や文字言語と視覚言語の境界は曖昧なものになりつつある。時としてシンボルマークが文字言語以上に告発、啓発の力を持つ例もあり、欧米発であろうとも世界的に共通言語となったシンボルは時として中国でも標語という「文字」以上に訴える力を持つという例を挙げてみよう。

次頁写真2の図に描かれたリボン<sup>1)</sup>は、もう説明の必要もないと思われる、エイズ患者に対する理解と支援のシンボル、レッドリボンである。エイズ伝染の原因は売春や同性愛者間



写真 2: エイズ啓蒙と理解を訴えるレッドリボン 遼寧省長山諸島B村 2008年8月11日 緒方宏海氏撮影

の交渉、ないし注射器の回し打ち、というのが感染拡大当初、社会一般の認識だったが、このレッドリボンが上述のどれともあまり関係なさそうな遼寧省の、しかも離島の家屋に描かれている点は中国の特殊なエイズ蔓延の経歴を象徴している。エイズ患者が中国の中でも貧困地域に集中しているのは貧しい地域で「売血」が結構な収入源になるためである。一回の八〇〇ccの売血で得られるのが年収の二%と書けば、それが

如何に魅力的か想像して貰えるだろうか。勿論採血方法そのものは安全であった。提供者の血液は血漿と赤血球に分けられ、赤血球は再び提供者の体に戻されるので貧血の恐れもない筈なのだが採血された血液が遠心分離器にかけられた際、他人の血液と混ざってしまったのである。<sup>(2)</sup>

レッドリボンは今や既に定着した感のある世界共通のシンボルだが、スマートフォン利用がこれだけ普及して世界どこにいてもメールのやりとりが出来る環境が整ってくることによって顔文字が今や文字の一部になってゆく現状を考えると、こうした世界的なキャンペーンに用いられるシンボルも文字を超えた「世界共通言語」になってゆくのもかもしれない。

#### 敏感語

和諧社会のスローガンに庶民が真つ向からアンチテーゼを突きつけるのはやはりネットの世界である。政治的に敏感な問題を孕む検索語「チベット」自体の検索は問題ないが、「チベット独立」や「ダライ・ラマ」などはヒット件数が極端に少なくなることがある。サイバー警察の検閲をくぐり抜けて社会の問題をネットで告発するブロガーもいるが、彼らも当然ながら対抗策を考えている。具体的な例から示してみよう。

一・曖昧検索を逆手にとってもらう 中国の民主化と切り



写真3: 和諧社会の重要性を謳った記念碑 遼寧省鳳城市A村付近 2008年8月16日 緒方宏海氏撮影

離せない天安門事件(一九八九)<sup>(3)</sup>を検索しようとする場合、単純に「天安門事件」と入力するのではなく、「天安門」「天安 門」「天安\*門」などと入力することで、政府を批判するブロガーのサイトに行き着ける確率は格段に上がる。検索語の間にスペースを入れることで曖昧検索をかけることが出来る裏技を利用したもので、ヒットするサイトを増やすことが出来る。

二. 同音異義語を利用する 和諧↓河蟹 両方とも hexie

という音で前述の天安門事件とも関係があるが、「民主」が敏感語扱いされる場合もあるが、その場合どのように検索を掛けるのか? 民主を併音(中国語のローマ字表記)で表すとMin zhuになるのでMzをキーワードにするのである<sup>(4)</sup>。

三. その他 更に漢字の国ならではのテクニックもある。

二〇一一年ネット空間に\*\*\*という見慣れない検索語が登場した。これはアラブの民主化を誘発する契機となったジャスミン革命にヒントを得たものである。中国では多少、検索を自国で制限できるが、こうもネットが発達した社会にあつてはジャスミン革命は天安門事件を想起させ、決して対岸の火事ではないのである。勘の良い読者諸兄諸姉は既におわかりであろうが、ジャスミンは中国語で書くとな茉莉花。つまり\*\*\*はジャスミンの隠語であり<sup>(5)</sup>、それは取りも直さず民主化に本腰を入れない政府への批判なのである。

終わりに

「和諧社会」を一言で日本語に直すのは難しい。意味を取つて「格差を是正し、調和の取れた社会」とする訳が王道なのかも知れないが、政府が小手先の経済政策を弄して個人や地域の収入の格差を是正しようと試みることで調和の取れ

た社会の実現に繋がる訳ではないのは明白である。伝統文化の復活―ここでは風水だが―故に起こった環境破壊、急速な経済発展に取り残されまいとする農村の売血によるエイズの蔓延、政府批判とそれに応じる庶民のネット活動など、和諧社会を巡る問題も多種多様であることは既に述べた。

ただし、中国に限らず社会問題に向き合う人々の姿勢も進歩し、その表現、発信方法も多様化している。中国語は漢字を使うと同時にその音も日本語より遙かに多い。豊かな漢字と音声（前述した同音異義語を巧みに使うネットの検索のあり方）の双方を生かして社会へ問題を提起しており、同時に世界の他の国と同様、文字以外の「記号」も今や言語の一つとなっている。

考えてみれば世界の主要言語の殆どが表音文字を使っている中、表意文字だけを使う中国語は特殊な言語であるかもしれない。また音声が多く日本人にとって発音もマスターするのも容易ではなく、漢字からの類推に頼っておおざっぱな読解を除けば寧ろ日本人にとって学習しづらい言語と考えられ始めた感がある。しかしここまで読んで頂いた読者諸氏には漢字と音声の豊かさこそが中国語表現を豊かにしていることも少しお分かり頂けたのではないかと思う。と同時に和諧社会を巡る表現の言外に含まれる憂いは世界の人々が抱える諸問題とも多く共通するものなので、読者諸氏にもこうした

言葉が決して中国独自の狭隘な憂国から来るものではないことを分かって頂けたら幸いである。

## (1) 注

レッドリボンはヨーロッパに古くから伝わる風習で病気や事故で人生を全うできなかった人への追悼の意を表す為に使われていたが、エイズが蔓延しだした一九八〇年代のアメリカ、とりわけニューヨークのアーティスト達がつけるようになり、エイズに対する理解と支援のシンボルとなっていた。

[www.weblio.jp](http://www.weblio.jp) Weblio 辞書 2013.10.16. アクセス

[www.city.kure.hiroshima.jp](http://www.city.kure.hiroshima.jp) 呉市保健所 レッドリボン

の話 2013.10.16. アクセス

## (2) 山本秀也『本当の中国を知っていますか？ 農村、エ

イズ、環境、司法』草思社 二〇〇四 一四七―一四八頁。一回の売血で得られるのは日本円にして六〇〇円程度だが、年収が三万ほどの農民にとっては二%にもなる。

## (3) 一九八九年六月、当時の胡耀邦主席の訃報を受けて、

その民主化に理解を示した同主席の生前の業績を偲んで天安門に集まった学生がそのまま民主化デモを行っ

- (4) た際、共産党が戦車を導入して弾圧した事件。中国の民主化を考える上で避けて通れない事件であり、当時の民主化運動に関係した人々は多くはアメリカやフランスなど海外に亡命したままである。
- NHK ドキュメンタリーWave「沸点中国プロガー」  
2011.11.5 放送
- (5) 高原明生「中国メディアの今 冷静な言説育つ兆しも」  
朝日新聞 2011.10.29.夕刊